ヨハネによる福音書 6章16〜33節

6

[16] 夕方になったので、弟子たちは湖畔へ下りて行った。[17] そして、舟に乗り、湖の向こう岸のカ
ファルナウムに行こうとした。既(すで)に暗くなっていたが、イエスはまだ 彼らのところには来ておられ
なかった。[18] 強い風が吹いて、湖は荒れ始めた。[19] 二十五ないし三十スタディオンばかり漕(こ)ぎ出(だ)したこ
ろ、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、彼らは恐れた。[20] イエスは言われた。
「わたしだ。恐れることはない。」[21] そこで、彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると 間
もなく、舟は目指す地に着いた。

[22] その翌日、湖の向こう岸に残っていた群衆は、そこには小舟が一そうしかなかったこと、また、
イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り込まれず、弟子たちだけが出かけたことに気づいた。[23] ところが、
ほかの小舟が数そう ティベリアスから、主が感謝の祈りを唱(とな)えられた後(のち)に人々がパンを食べた場所
へ近づいて来た。[24] 群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知ると、自分たちもそれらの小舟に
乗り、イエスを捜し求めて カファルナウムに来た。[25] そして、湖の向こう岸でイエスを見つけると、
「ラビ、いつ、ここにおいでになったのですか」と言った。[26] イエスは答えて言われた。「はっきり
言っておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹
したからだ。[27] 朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物の
ために働きなさい。これこそ、人の子があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を
認証されたからである。」[28] そこで彼らが、「神の業(わざ)を行うためには、何をしたらよいでしょうか」
と言うと、[29] イエスは答えて言われた。「神がお遣(つか)わしになった者を信じること、それが神の業(わざ)である。」[30] そこで、彼らは言った。「それでは、わたしたちが見てあなたを信じることができるように、
どんなしるしを行(おこな)ってくださいますか。どのようなことをしてくださいますか。[31] わたしたちの先
祖は、荒れ野でマンナを食べました。『天からのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとお
りです。」[32] すると、イエスは言われた。「はっきり言っておく。モーセが天からのパンをあなたが
たに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。[33] 神のパンは、天から
降(くだ)って来(き)て、世に命を与えるものである。」